

## 第9回 2021年卒 就活準備スタート講座《後編》

～就職活動本番に向けて、今からすべきこと～

日時：2019年10月8日（火） 16:20～17:50

場所：文学部B251講義室

講師：北濱愛美氏（株式会社マイナビ）

今回のリテラアワー「就職、そして社会人への道⑨」では、マイナビの北濱さんに、今からすべき就活準備についてお話ししていただきました。

まず、「就職活動に『正解』はないが、『NG』はある」ということを強調されました。そして、就職活動中でありがちな悩みを動画で見て、準備として何が重要なのかを参加者と共に考えました。

重要な点の1つ目は、自己分析です。他人が合格した面接の応答（「正解」の応答？）をそのまま借りるのではなく、自分の経験（困難をどのように乗り越えたかも含めて）を話すことが重要です。そのためには、自らの特性（興味・能力・価値観）を、周囲からの評価も含めながら、探ることが必要です。

2つ目は、情報収集です。就職活動初期からインターンシップ先企業を第1志望先に絞り、内々定を獲得するのにもかかわらず不安であるというケースが近年増加中で、それは他社との比較が十分にできていないことに起因します。3年生後期にも、選択肢を確保し、比較検討をする作業を引き続き行うことが重要です。その情報源には、新聞、業界研究本、ビジネス雑誌、インターネット（企業HPなど）、

そしてインターンシップや説明会で得られる生の声があります。

インターンシップは秋冬にも行われており、特に10月から2月まで実施企業が増えています。特徴として、夏に実施しなかった企業がある、土日開催が中心、開催数が増えるが挙げられます。ただ、10月初旬がエントリーの締め切りのピークですので注意が必要です。気になるインターンシップがあれば、エントリーをしておきましょう。エントリーをすれば、即インターンシップ参加決定というわけではなく、その後企業とのやりとりがあるので、その過程での参加・不参加の決定ができます。

インターンシップに関して、参加したからといって就職活動で優遇されることを期待してはいけません。説得力のあるエントリーシート・志望動機づくりに有効であること、3月より前に一步リードできるということが、インターンシップ参加の意義と言えます。また、参加にあたり、比較検討力や選考対策が培われることをプラス材料に考えましょう。

さて、秋冬インターンシップを前にした就活生は、①夏のインターンシップにも参加し、行きたい業界・企業が絞れている、②夏のインターンシップに参加しておらず、行きたい業界がわからない、③夏のインターンシップにも参加したが、行きたいところがわからなくなったの3タイプに分けることができます。それぞれのアドバイスとして、①向け：他社のインターンシップにも参加し、比較しよう、②向け：参加目的や条件（期間や内容など）をもとに検索しよう、③向け：なぜ夏のインターンシップが合わなかったのかを振り返ろうが挙げられます。なかでも、インターンシップ後の振り返りは、全員にとって重要です。何が楽しかったのか、なぜ面白くなかったのかを洗い出し、次回につなげましょう。

インターンシップ参加にあたり、選考がある場合があります。自己PRと希望理由が主な質問事項です。前者については、自分自身のコアをエピソードに基づいて述べるよう工夫しましょう。後者について

は、仕事を知らないことを前提として、なぜその会社なのか？何をやりたいのか？今後どう活かしたいのか？を考えるといいでしょう。ちなみに、エントリーから選考面接合格まで到達できた人の割合は5%と低く、選考に落ちたからといって落ち込むことはありません。

最後に、今後の就職活動で重要な点をおさらいします。①自己分析と企業研究、②インターンシップ参加予定者はその情報収集、③行き詰まったら早めに相談、④説明会などイベントへの予約

参加者アンケートの中から、感想をいくつかご紹介します。

- ・インターンシップや就活で、どのようなことを心がけていけば良いのか具体的にわかった。
- ・企業を知る努力をする必要性・重要性を実感できた。
- ・タイプ別にインターンシップへの対応が丁寧だと思った。
- ・夏のインターンシップの書類選考にことごとく落ちていたのですが、それもしよげる要素にはならないと気づけた。

参加者：学部・大学院生 18名、教員2名、職員1名

